



6割「就活順調だった」

今春の新入社員調査

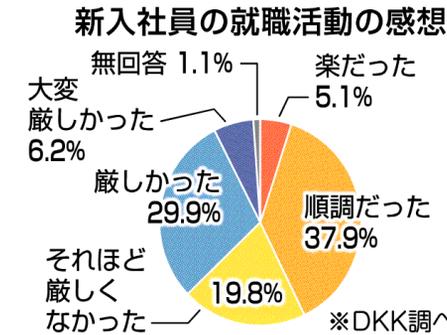
地場シンクタンクの大銀経済経営研究所(DKK、大分市)は、県内企業の新入社員の意識調査結果を公表した。約6割が就職活動は順調だったという趣旨の回答をしており、2004年の開始以来で最高になった。厳しいと感じたのは約3割で過去最低だった。深刻な人手不足を背景に企業の採用意欲が旺盛で、学生に有利な「売り手市場」の傾向が一層強まっているようだ。

今春に就職した人で、D

KK主催の新入社員マナー研修などに参加した177人を対象に、3〜4月にかけて無記名形式のアンケートをした。全員から回答を

得た。

就活は「順調だった」が37・9%で、前回23年から11・4%上昇した。「楽だった」(5・1%)、「それほど厳しくなかった」(19・8%)と、比較的順調に進められたと感じた人は6割を超えている。



「厳しかった」(29・9%)、「大変厳しかった」(6・2%)は計36・1%で、2・7%下がった。DKKは「企業が人材の確保に必死で、全国的に売り手市場が続いている」とみる。内定の時期を尋ねると、

「売り手市場」強まる

「入社前年の10〜12月」が32・2%で最多だった。前年7〜9月(21・5%)、「前年4〜6月」と「前年3月以前」がそれぞれ16・9%だった。

このうち大学卒・大学院卒者が前年3月までに内定を得る割合は20・3%で、前回から11・2%上がった。優秀な人材を早めに確保しようと、企業が採用時期を前倒しする様子がうかがえる。

同じ企業でいつまで働きたいかとの質問で、「とりたいはず今の職場で働く」が68・4%と最多で、前回から8・2%上昇。「定年まで」は18・6%で8・9%下落した。

DKK調査企画部の阿部哲也研究員は「定年まで働くことを意識する若者は少なくなった。自分のキャリアを形成していく中で、将来の転職や起業を前提に考えている人も多いのではないか」とみている。

(富高萌南実)



〔問①〕 就職活動の「売り手市場」とはどういった状況ですか。その要因は。

〔問②〕 今春の新入社員調査で「順調だった」とした割合は、前回から何ポイント上昇しましたか。

〔問③〕 内定の時期で最も多かった答えは？

〔問④〕 あなたの就職に対する考えは？ 話し合ってみよう